くにみ

【第84号】
昭和39年9月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

長生きおめでとうございます

長命者に敬老年金を贈る

県（88才以上）一二人
町（80才以上）一一二人

昨年八月一日初めて老人福祉法が施行され、県では八十八才以上の高令者に対し三千円の敬老年金を贈り、永年の労苦にむくえた。これにならい、わが町では八十才以上の老人に対し五百円の敬老年金を贈って、老人をはげましたのであった。才二年目の「老人の日」にあたる九月十五日、今年あらたに八十八才になった鈴木イチさん（西大枝）ら六人に対し年金証書を下付昨年の六人と合わせ十二人の高令者に木村県知事から金年が贈られた。また八十才以上の左記一一二人に対しては、赤井畑町長から年金を贈り、今後ますます健康で長生きするようはげました

◇八十八才以上の長命者

氏名　生年月日　住所

玉手タツ　慶応三・八・六　西大枝

新井文翁　明治六・二・三　全

松浦ツヨ　同　七・二・五　光明寺

菊地リカ　同　七・四・一　塚野目

小林イシ　同　七・三・五　西大枝

市川ナジ　同　八・五・二　石母田

鈴木イチ　同　八・九・二　西大枝

宮沢マツ　同　八・二・二　藤田

佐藤ユキ　同　九・三・三　高城

高橋ハナ　同　九・三・一〇　川内

渋谷亀次　同　九・四・四　光明寺

鈴木シン　同　九・五・三　西大枝

これを見ると一二人のうち半分の六人は大枝地区であり、男二人に対し女は五倍の一〇人となり、長命者は男より女に多く、地区的には大枝が断然多いというわけである。

◇八十才以上の高令者を大字別に掲げてみる。

◎藤田　男六　女一　計一七

武田よね　佐久間喜一　宍戸まん　阿部ヨシノ　武田狂八　奥山カヤ　佐藤条次郎　小西トモ　菅野安吉　松浦マキ　仲田しも　高橋キク　羽賀トメ　古関新之助　山崎キヨノ　阿部喜平　宮沢マツ

◎石母田　男〇　女一　計一

藤田サダ　後藤アキ　宍戸チカ　松浦ツギ　斎藤ウラ　阿部ハク　斎藤フク　佐藤エク　佐々木フキ　斎藤トメ　市川ナジ

◎山崎　男五　女四　計九

浅野善蔵　八島林次郎　高橋福次郎　高橋喜蔵　八島喜一　八島キチ　浅野ハル　村上ヒロ　吉田ヨネ

◎小坂　男〇　女三　計三

高原カネ　高野トメ　山田トメ

◎内谷　男二　女〇　計二

安藤庄吉　古内初太郎

◎鳥取　男二　女二　計四

高橋ヅン　後藤ミヨ　高野喜三郎　高橋忠次郎

◎泉田　男一　女三　計四

若林ハナ　佐藤サツ　佐藤兵助　阿部イチ　宍戸さと　谷津ユン　佐藤チウ　佐藤ナチ　佐藤庄吉　小幡クラ　石川ハツ　佐藤ナカ

◎森山　男一　女七　計八

宍戸さと　谷津ユン　佐藤チウ　佐藤ナチ　佐藤庄吉　小幡クラ　石川ハツ　佐藤ナカ

◎徳江　男〇　女六　計六

斎藤ミネ　大波エキ　後藤ハル　斎藤サン　徳江トミ　宍戸シモ

◎塚野目　男〇　女四　計四

佐藤クキ　菊地ミン　菊地フヨ　菊地リカ

◎大木戸　男二　女三　計五

阿部キク　阿部庄平　松浦市郎　松浦タツ　忍コク

◎高城　男五　女四　計九

佐藤セキ　長谷川市寿　村上熊五郎　佐藤ユキ　志村茂兵工　八島富蔵　武田トラ　八島キン　後藤今朝太郎

◎光明寺　男二　女四　計六

遠藤ナチ　畑中久兵衛　桜沢クニ　渋谷亀次　遠藤ナカ・松浦ツヨ

◎貝田　男一　女三　計四

高橋キク　高橋徳五郎　阿部ハナ　谷津キク

◎川内　男二　女三　計五

岩城伝蔵　佐久間サイ　後藤せつ　鈴木重兵衛　高橋ハナ

◎西大枝　男五　女一〇　計一五

佐藤弥太郎　佐藤アキ　鈴木ツマ　新井ハツ　佐藤幸七　佐藤ツル　瀬戸友次郎　松浦テルヨ　松浦トミノ　佐藤喜平治　鈴木シン　鈴木イチ　新井文翁　小林イシ　玉手タツ

これを方部別に整理してみると次のようになる。

	男	女
藤田	二	二六
小坂	五	八
森江野	一	七
大木戸	一〇	二四
大枝	七	二四
計	二四	大 一三

この表を見て気付いたことの二、三を列記してみる。

○森江野の男に一人しかないのはどうしたことか、係員の見おとしでなければ何かわけがありそうだ。

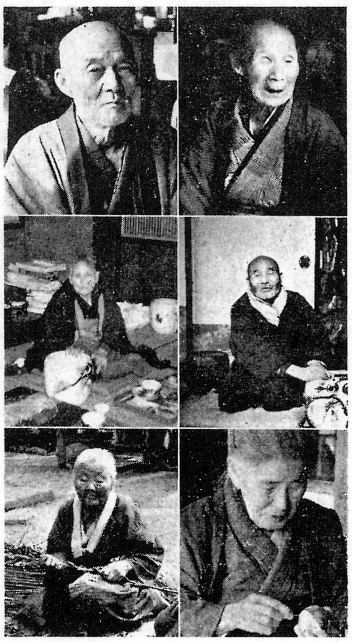
○女は男の二、三倍ある。但しこれは八十八才以上の五倍にくらべれば差が少ない

○方部別にいうと大枝にやはり長命者が多く、森江野、小坂に少ない。

○その他たくさんあると思われる。お気付きになった方はお知らせください。

（公民館鈴木）

写真は（右上から）宮沢マツ、市川ナジ、鈴木シン（左上から）高橋ハナ、鈴木イチ、玉手タツ



写真は（右上から）松浦ツヨ、渋谷亀次、小林イシ（左上から）新井文翁、佐藤ユキ、菊地リカ

◎高い交通道徳でオリンピックをかざりましょう

老人の日に寄せて

春日佑幸

先頃ある老人夫妻をたずねたときの話を述べてみたい。

その家は、八十近い老夫婦五十近い息子夫婦と成人式をすぎた男孫、それに学校に通っている弟妹三人という家族構成であるから、明治、大正、昭和三代の人の共同生活であり、いわば過去、現在、未来の人生の象徴ともいうべき複雑さがあるわけだが、家庭内は非常に明るい。私は、この家庭内の明るさがどこから来ているかについてきいてみた。すると

「私は間もなく八十になるし息子は五十近いのだから、家業一切は数年前から若い者にまかせて、わしらは忙しい時にできるだけ手伝っています。孫のもりはすんだので、学校を終った孫や下の孫たちの進路のことやPTA関係のことなどはもろんみなの相談にまかせています。私どもの小ずかいは家の所得（年四五十万円らしい）の二十分の一ほどをもらうのと老令年金とで計画的にまかなっているのです。」

この話をきいてみると、すべてが模範的だというわけもなかろうけれども、とにかく家族の人びとがよく話し合って、平和な生活を送っていられるなと察しられて、教えられる点が多かったことを感謝し、お互いに理解のある態度に敬意を表すると共に、ご一家の幸福を祝福した次第でした。

（三九、九、一二）

みんなでやろう　スポーツの祭　10月4日

大学生の模範演技　みんなで踊る五輪音頭

世紀の祭典オリンピックを目前に控えた十月四日、わが町伝統の町民体育大会は開かれる。国では毎年十月の第一土曜日を「スポーツの日」と定め、国民こぞってスポーツに親しませようとしているがわが町では十年前からすでにこれを実行している。いわば国家に対して先鞭をつけたわけである。

ところで今年の大会には、オリンピックの年にふさわしい数々の種目が設けられ、町民各位の参加を待っているが、特にスポーツに対する理解を深めるため、福島大学の体育部員十名（男女各五名）を招き、器械体操や徒手体操などを披露してもらうことになっており、又聖火リレーに参加した中学生や職場代表としての睦商会従業員の特別参加などもあって、近来にない見ごたえのある大会になるものと予想される。この大会は入賞することよりも参加することに意義があるようすべてが仕組まれているのであるから、おとしよりも若い人も、お父さんもお母さんもみんなで参加していただきたい。今年の主な種目次のとおり（若干の変更はあるかも知れない）

△一般の部
一〇〇メートル（女）
二〇〇メートル（男）
おしどりレース（男女）
輪まわし（男）

△一六五〇メートルリレー
△老人クラブ
宝ひろい
玉入れ（方部対抗）
△剣友会
剣道形、練習
△山友会
夏山スキー（紅白対抗）
△職場対抗
八〇〇メートルリレー
△農研団体、推進員
俵かつぎリレー
△部落長、組合長
輪廻し
△議会議員、教育委員
こいつり
△交通安全会
安全交通（ボール送り）
△議員、婦人会対抗
玉入れ
△民生委員
ローソクリレー（紅白）
△睦商会
相馬盆唄
五輪音頭
△中学生
組体操
写真は踊りの猛練習

スプンレース（女）
五輪音頭（全員）
△部落対抗
八〇〇メートルリレー
（男四名づつ）
△方部対抗
綱引き（男二五・女二五）
△青年の部
カード合せ（男女）
一三〇〇メートルリレー
（方部対抗）
ドラムレース（紅白対抗）
すずめ追い（同）
△婦人の部
ボール送り（方部対抗）
玉入れ（同）
輪くぐり（紅白対抗）
踊り日本音頭
さあさ踊ろよ
△未亡人会
借りものレース
△消防団
人命救助

交通の三悪追放

○酒のみ運転
○無免許運転
○スピードの出しすぎ

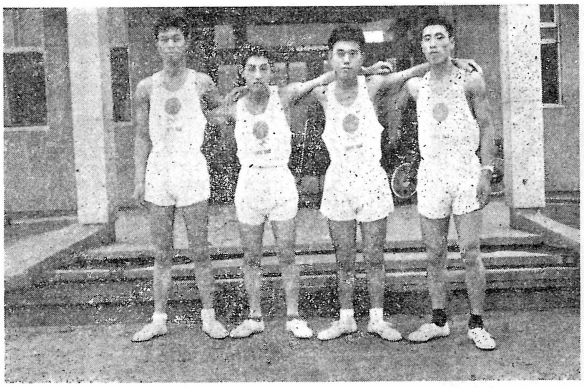
処世の秘訣

ジェファーソン

1 今日すべきことを明日に延ばすな。
2 君でできることを人にたのむな。
3 自分でもうけるまではつかうな。
4 安くても君が必要でないものは買うな。
5 ぜいたくは飢よりも寒さよりもこわい。
6 少食ですませば後悔がない。
7 進んでやればいやな仕事も好きになる。
8 悪事を二度とくりかえすな。
9 仕事はできるところからはじめよ。
10 怒れたらまず十数えよ。ひどく怒れたら百数えよ。（米国才三代の大統領）

◎九月十五日は老人の日……としよりの身になつて考えよう

ようこそ聖火！日の丸と拍手で迎えよう



正走者左から　高橋、佐野、渋谷、佐藤の諸君

ギリシヤを出発したオリンピック聖火は、中近東から東南アジヤ十二か国の旅を終え今月七日沖縄に到着、九日にはいよいよ本土入りした。そして鹿児島、宮崎、札幌を基点として国内リレーが始まり只今、それぞれのコースをとりながら東京に向って進行中である。札幌をたった聖火は十七日青森に渡り、ここで二つにわかれ、一つは秋田、山形、新潟と日本海側を通り、一つは岩手、宮城を通って本県に入る。二十八日午後二時十一分（前号で十三分としてあったが宮城県側の都合により変更）陸上自衛隊の吹奏する「若い力」の勇ましい奏楽に迎えられて貝田中継所（県境）に到着、受渡し式が行われる。オリンピック聖火国内リレー宮城県実行委員会長（宮城県知事）から本県実行委員会長（福島県知事）に引継がれた聖火は、わが才一走者渋谷肇君に渡され、斎藤真利、渋谷節夫の副走者及び二十名の随走者に従われて、いよいよ本県内のリレーは始まるのである。各中継所の通過時刻は後記のとおりであるので、町民の皆さんはもよりの場所で歓迎していただきたい。尚、テレビなどでもわかるとおり、当日はものすごい人出で混雑が予想されるので、次の諸点についてよく注意し、安全、円滑に聖火を送迎するようご協力いただきたい。

◎中継所通過予定時刻

貝田（県境）着　二、一一
（受渡し式）
貝田発　二、一八
（新国道）
大木戸駐在所前　二、二
（新国道）
県北中学校前　二、二四
（滝川より旧国道）三四
福島交通車庫前　二、四二
（徳江街道より新国道へ）
桑折との町境　二、四八

◎聖火隊の編成

先導　白バイ二名
正走者　一名聖火捧持
副走者　二名予備トーチ
随走者　二〇名小旗棒持
自動車　七台五号車に町長教育長、公民館長が乗る

以上が正式の聖火隊で、これを無事進行させるためにその前後に広報車、無線車白バイなどたくさんの車がつくのである。

慣習の変つた各国の(一)

ノルウエーの娘

私はこんどの旅行で、各地各国にそれぞれ異なった習慣があり、ある時は驚きまたとまどいもしたが、特いろ話してみた。彼女はまだ結婚前で、婚約者をもつ十八歳の娘であり、今年の夏はずっと一人で山小屋で過すという。というのは、この地方で娘になると、こうして山小屋へ登って家畜の番をするということは、結婚前の一つの修業であるらしく、一人で山小屋で孤独にたえて独立心を養ない且つ又、人間社会の意義を悟り、そして未来に対する夢を持つのだそうだ。大自然の中で、しかも高山植物が咲き乱れる高原で美しい娘が、白夜の中で私たちの為に歌をうたい、又笛を吹いてくれたあの時は、忘れようにも忘れ難い思い出であり、若い娘に対する精神修業としては、これ以上のものが無いのではないかとさえ思えた。まったく北欧らしいめずらしい習慣である。

彼の女の一日は、乳牛と山羊の番をしながら本を読み、ある時は歌い、そして土曜、日曜に山へ訪ねてくる恋人との想いにふけるという、もちろん食事その他すべて自分でするのである。デンマークにおけるカールビーアの制度（前に館報才八十号に紹介）と違った意味で又すばらしい習慣と思った。その後私たちは、農家に泊って農業を視察して帰る時、ちょうど彼女（山の娘さん）が村の家に帰ってきたといって訪ねてきてくれ、駅まで見送ってくれた。その時の記念に写したのがこの写真である。

白夜のノルウーエと共に忘れ得ぬ旅の一コマである

（写真）は牛を追うノルエーの娘さんと筆者

八島　博正

修学旅行に憶う

佐藤昭元

われわれ青年学級生二七名は、公民館長さんや主事先生方に付添われ、十和田、男鹿方面の見学旅行をした。両地とも天下に名高い景勝の地、主目的はいま流行の観光にあったかも知れないが、われわれのねらうところはもっとあった。気候、風土に めぐまれない本州のへき地における産業開発の状況や人情風俗に接し、また団体生活を通して社会を理解し、われわれ青年の進むべき道を考えようとするのであった。従ってこの計画の立案については大いに意を用い、数回にわたる役員会や全体会を開いて原案をつくり調査研究を重ね、学級生一人一人にその趣旨要領を徹底したのである。それがために、方面の見学旅行をした。両地「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という考え方が各自の心の中にはっきりときざみこまれ、全員一致協力、秩序整然としてその目的が達成できたのである。

「老人は過去に生き、成人は現在に生き、青年は未来に生きる」といわれる。われわれ青年は、毎日父母を助けて家業に精出すことはもちろん大切であるけれども、将来に夢を描き、理想を追うことも必要である。青年が過去にとらわれ、目の前のことだけを考え、現在に満足していたとしたら、世の中はどうなるだろう。それがためにわれわれは青年学級で勉強するのである。その勉強としては、あるいは講義をきき実験実習を重ね読書や視聴覚を通して話し合いを築いた先人たちの話、不毛の砂丘に防風林を仕立てて裏日本の農民を救つた栗田定之丞の功績など、この目でたかに見、耳で聞くことにより、感激まことに大なるものがあった。いたるところの山谷をおおいつくす秋田杉の美林、基盤が整備され、品種が統一された一望千里の水田地帯の壮観、しかもいま、一万七千ヘクタールの八郎潟の干拓事業が進んでいるのだ。

われわれはいま、農業の曲り角に立って右往左往しているが、われわれの先輩が現在以上の困難をのりこえて築きあげてきた姿に接し「しっかりしろ」と尻をたたかれるような気がした。農業構造改善などと大きなお題目に押しつぶされることなく、過去を考え、将来を見通しながら、一つ一つ具体的な問題ととりくんで進もうではないか。

（青年学級委員長）

優秀な農業後継者を養成

（39年度農村青年生産技術研修会開かれる）

県では農業の近代化をおしすすめて、企業的な農業経営を実施するためには、優秀な後継者を育成しなければならないとして、農村青年の生産技術研究会を開くことになり先日その才一回稲作部門の研修会が行われた。

これには、農村青年が希望をもって今後の農業を担うために必要とする知識技能を研修させ、さらに合宿共同生活を通して自主協同の精神を涵養して豊かな農村を建設する中核的青年を育成することを目的として、次のような計画を立てている。尚研修参加者に制限があるので希望者はなるべく早目に町役場に申出られたい。（その中から選んで町長が推薦することになる）

研修計画一覧表

（各七日間とする）

稲作　七月二十日より　県立農業試験場（郡山）
そ菜（高冷地）　八月二十四日より　会津経営伝習農場
果樹（りんご・もも）　一月二十六日より　矢吹原経営伝習農場
果樹（なし）　一月十九日より　同前
畜産（豚）　十二月七日より　同前
畜産（鶏）　十一月三十日より　県立農業試験場
養蚕　八月八日より　蚕業試験場（梁川）
十一月二十二日より　同前

◎才一回稲作部門研修会に参加した高橋佐七君（大字塚野目）はその感想を次のように報告している。

「私は町長殿のご推選を受け農業試験場（郡山）において稲作部門に参加しました。県内から集まった二十六名の研修生と七月二十日から寝食を共にしながら次の日程で研修してまいりました。

一日目　開講式
二日目　稲の生理、水稲品種の特性について
三日目　除草剤の使い方、本田深耕と稲作技術について
四日目　稲作と土壌肥料、水稲直播栽培について
五日目　水稲の病害虫の見わけ方とその防除について
六日目　水稲集団栽培について
七日目　閉講式について

このような内容から、今後の稲作は、省力を重点に考え、この為には直播栽培を行ないこれが技術を向上して移植栽培に劣らぬ増収を図らねばならぬと思います。この度の研修で非常に得るところがあり来年はこれらのことを実行してその実を挙げて見たいと思います。」

ニッポン音頭

一、さあさ踊ろよ　日本音頭　どうせ踊るなら世界を舞台　オリンピックの晴れの日に
（ソレ出てまた出て　チョチョンが　チョン〳〵）
ハ、ぐるりと廻って　チョチョンが　チョン〳〵）
二、日本よい国　富士山ひとつ　埋めのこした桜のかすみ　中で音頭のほがらかさ
三、あの子年ごろ　桜は見ごろ　踊る音頭で見かわす顔が　にっこり〳〵　縁となる
四、ママにつれられヨチヨチと　かわい坊やのチョイト初踊り　ほめて頂だいお月様
五、右が笑えば　左も笑う　笑う顔から　踊りの輪から　世界平和の春がくる

さあさ踊ろよ

一、お手手つないで仲よくまるく　さあさ踊ろよ空でも踊る　まるい大きなお月さま
二、月が呼んだか呼ばれてきたか　長いたもとのかわいいあの子　いつか踊りの花となる
三、きりよう千両　えくぼは万両　笑って踊りや　手振り合わせて千万両
四、二人三人　小さな輪から　五人七人輪に輪がふえて　日本国中の輪ができる
五、右が笑えば　左も笑う　笑う顔から　踊りの輪から　世界平和の春がくる

編集後記

◎月おくれの館報になってしまいました。これも人手不足になやむ社会の姿の一面とおゆるしください。

◎スポーツの秋、オリンピック本番のとし、わが町民体育大会も十一回目を迎えました。老いも若きも、みんなで楽しくやりましょう。

◎ご長命まことにおめでとうございます。長命者がふえるということは、何といってもよろばしいことですが、長生き必ずしも幸福とばかりは受けとれない面もあります。みんなでよく考えましょう

◎交通安全都市を宣言してすでに一年半、今もって「酒のみ運転」「スピード違反」「無免許運転」をやめてくださいとくりかえさねばならない現状を悲しくおもいます。